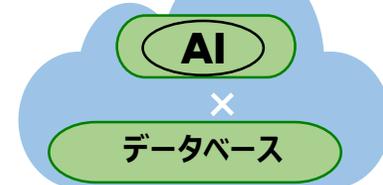


IoPプロジェクト推進チームの活動状況



IoPクラウド



R3.6.5
農業振興部
農業イノベーション推進課
IoP推進室
(088-821-4570)



1. 野菜産出額130億円増を達成していくための推進体制

野菜産出額に関するKPI 621億円(H29)→751億円(R9) : 130億円増

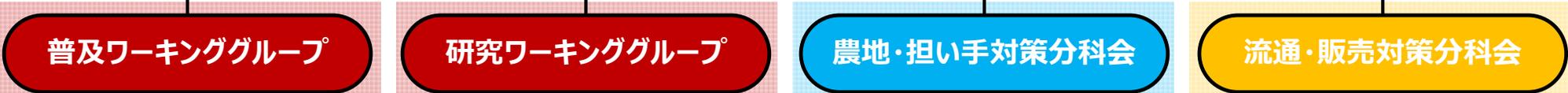
※KPIの農業産出額については、農水省の公表数字を元に単価を、5カ年平均で再試算しているため値が異なります。



KPIを着実に達成していくためには、反収増の取組だけではなく、面積拡大や単価アップの取組も必要

$$\text{農業所得} = \text{反収} \times \text{面積} \times \text{単価} - \text{経費}$$

農業振興部IoPプロジェクト推進チーム



農業政策課

農業イノベーション推進課

環境農業推進課

- 安芸農業振興センター
- 中央東農業振興センター
- 中央西農業振興センター
- 須崎農業振興センター
- 幡多農業振興センター

農業技術センター

農業担い手支援課

農業基盤課

農産物マーケティング戦略課





2. 各ワーキンググループ、分科会で目標達成に向けて活動開始

野菜産出額に関するKPI 621億円(H29)→751億円(R9) : 130億円増

※KPIの農業産出額については、農水省の公表数字を元に単価を、5カ年平均で再試算しているため値が異なっています。



KPIを着実に達成していくためには、反収増の取組だけではなく、面積拡大や単価アップの取組も必要

農業所得

=

反収

×

面積

×

単価

-

経費

農業振興部IoPプロジェクト推進チーム

普及ワーキンググループ

データ
駆動型の
普及指導
体制へ

(目標：90億円)

研究ワーキンググループ

データ
駆動型の
研究
体制へ

(目標：90億円)

農地・担い手対策分科会

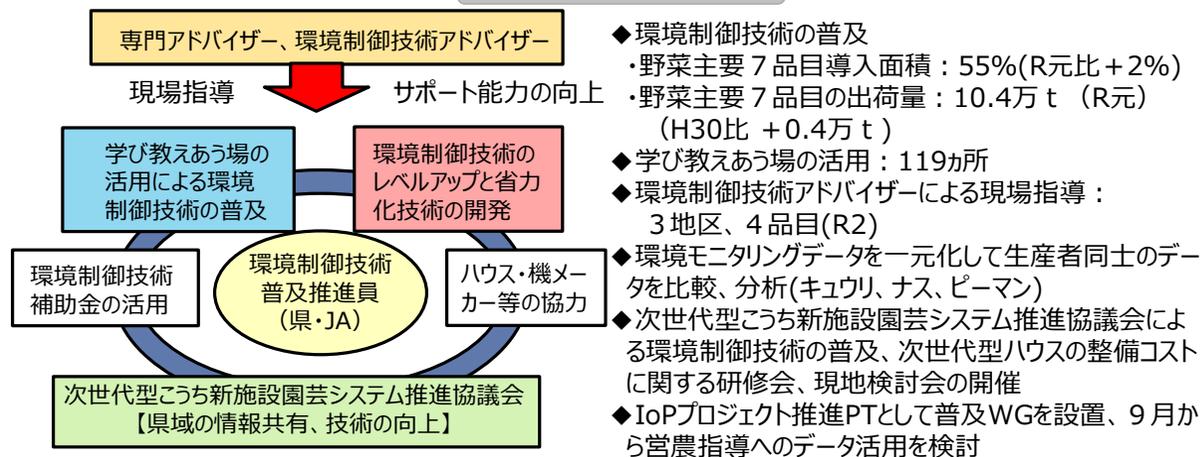
地域地域に新たな
施設園芸団地
(新規就農者、
規模拡大志向農家
企業等がすぐに
活用できる)

3ha×4カ所
(目標：10億円)

流通・販売対策分科会

現状の市場流通を中
心としたプロダクト
アウト型販売
+
新たな
マーケットイン型
販売
(目標：30億円)

これまでの取り組み

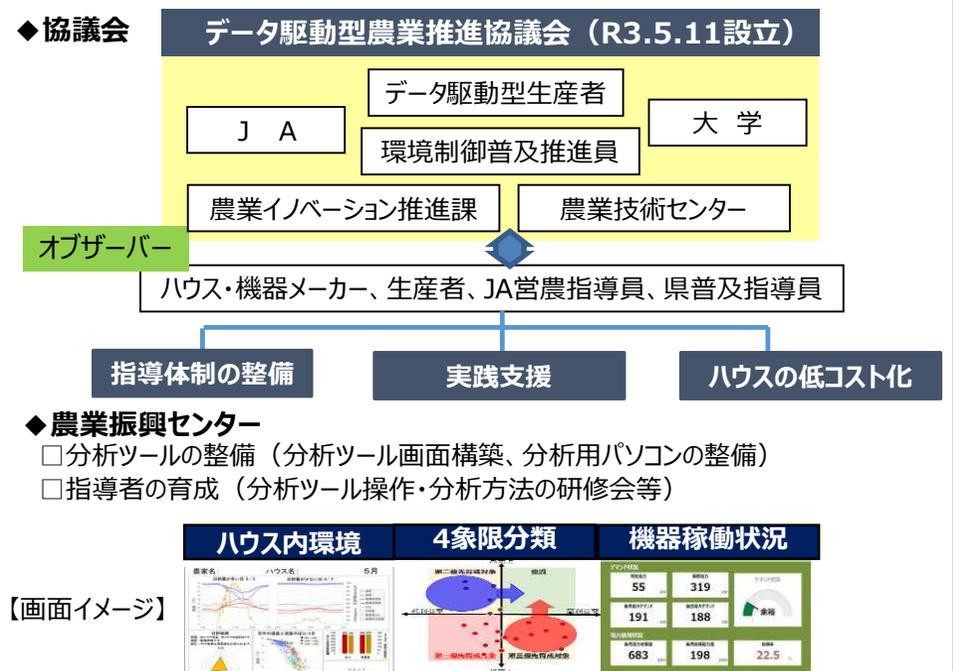


課題・対応策

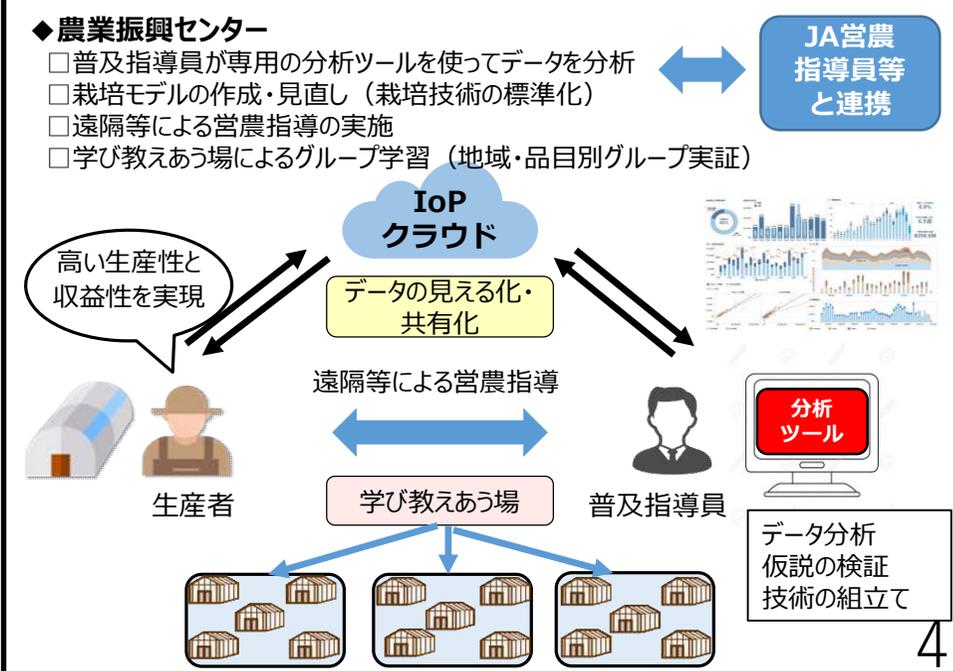
- ◆新型コロナウイルス感染症の影響を乗り越え、施設園芸産地を維持・発展させることが必要。
- ◆R2年度から、データ共有基盤「IoPクラウド」プロトタイプの実験運用を開始、データの「見える化」と分析・共有によって生産性と収益性を向上させる「データ駆動型農業」の推進に向けた体制整備が必要。
 - ⇒ **データ駆動型農業の推進**
- ◆環境制御技術の普及などにより、デジタル技術を活用した施設園芸が行われるようになったが、データを栽培に十分生かし切れていない状況。
 - ⇒ **データ駆動型農業の実践支援**
- ◆デジタル技術を活用するためには新たな投資が必要。
 - ⇒ **次世代型ハウスの更なる低コスト化**



New データ駆動型農業の推進



New データ駆動型農業の実践支援



データ駆動型農業による営農支援者の拡大



4. データ駆動型農業推進協議会のメンバー構成

構成員	氏名・担当者
(株)ベストグロウ, (有) 四万十みはら菜園	東 宣雄
四万十とまと(株)	山本 喜代晴
ゆめファーム全農こうち	石田 裕太郎
(株)イチネン高知日高村農園	小能 聖太郎
(株)南国スタイル	中村 文隆
(株)尾原農園	尾原 由章(会長)
(株)篤農	森岡 健児
(株)下村青果商会	下村 晃廣(副)
はぐみ農園(株)	西内 直彦
芸西村ピーマン農家	藤戸 崇
土佐市ピーマン農家	山本 康弘
香美市シシトウ農家	林 智章
春野町キュウリ農家	高橋 洋輔
安芸市ナス農家	宮崎 武士
安芸市ナス農家	北村 展之
香南市ピーマン農家	西山 忠宏
黒潮町キュウリ農家	矢野 浩一朗

構成員	氏名・担当者
全農西日本広域施設農住事業所 高知施設農住事務所	西村 裕之
高知県農業協同組合 営農販売事業本部	小島 信行
高知県農業協同組合 農業所得増大対策室	山脇 浩二
高知市農業協同組合 営農経済部	坂本 尚紀
土佐くろしお農業協同組合 営農部	廣見 哲夫
高知大学 農林海洋科学部	森 牧人
高知工科大学 環境理工学群	古沢 浩
高知県農業技術センター	農業情報研究室長
高知県農業イノベーション推進課	課長

オブザーバー	機関・所属
高知県農業振興部 事務局:農業イノベーション推進課	農業振興センター（データ駆動型農業推進担当・環境制御普及推進担当等）、農業技術センター、農業担い手育成センター、農業大学校、関係各課
高知県農業協同組合 高知市農業協同組合 土佐くろしお農業協同組合	営農指導担当部・課、営農経済センター （環境制御技術普及推進員等）
次世代型ハウス導入農家、IoP実証農家	

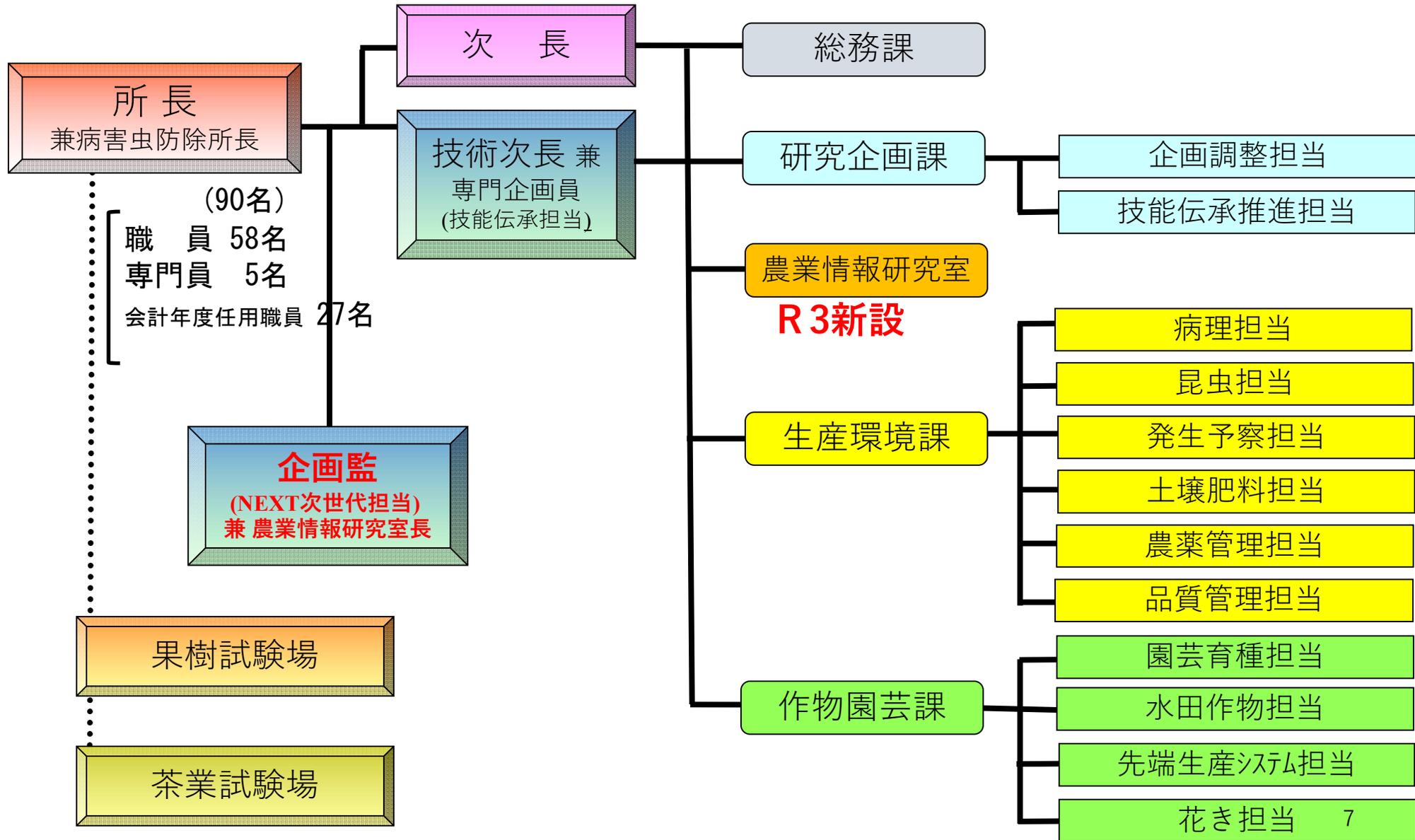


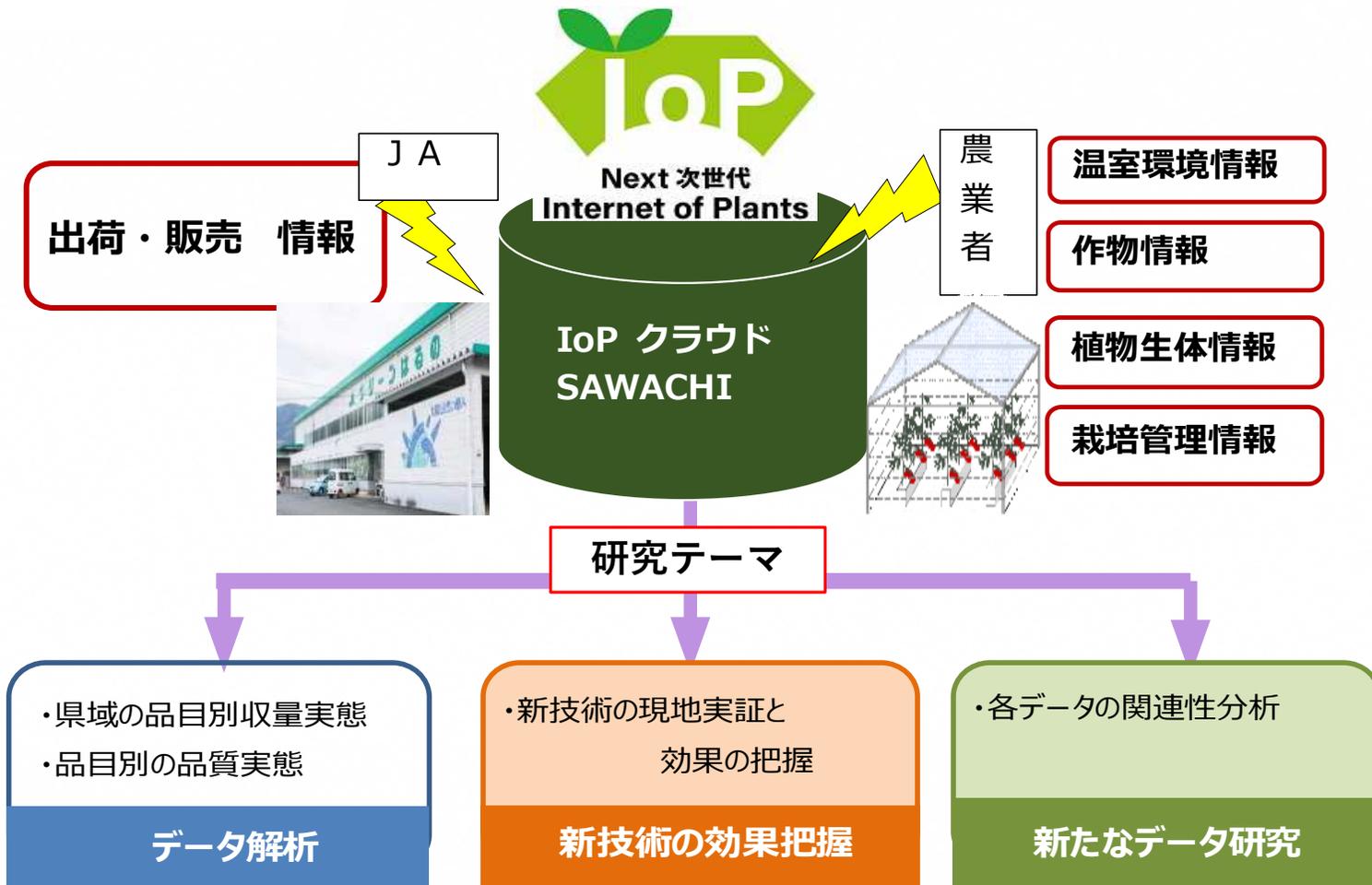
5. データ駆動型の研究推進体制 (県農業技術センターの体制強化)





6. 農業技術センターの組織機構図・・・農業情報研究室を新設(R3.4)





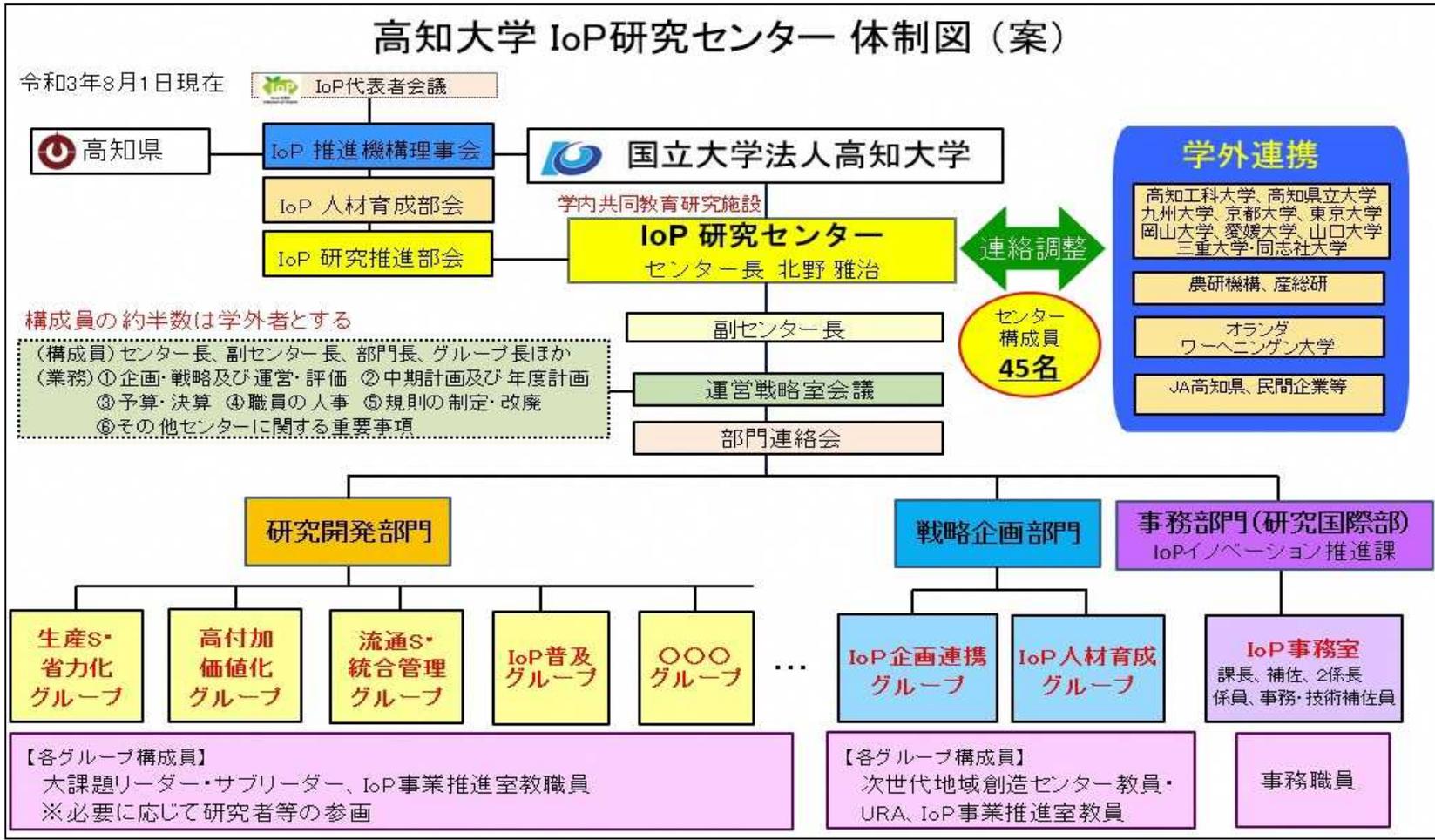
農家の皆様、JA、普及指導員に、有益情報としてフィードバック！



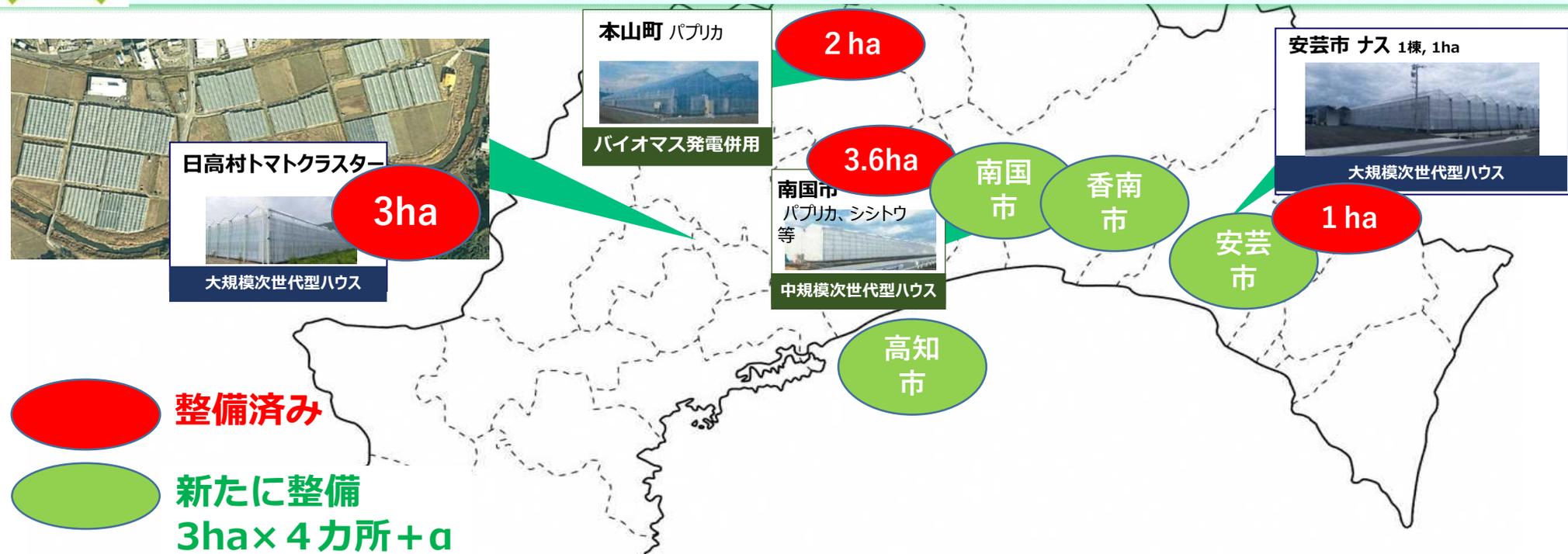
8. 研究の自走に向けて、高知大学内にIoP共創センター(仮称)を設立(R3.8予定)

・高知大学内にIoPプロジェクトの研究基盤となる全学組織「**IoP共創センター（仮称）**」を本年8月に設置し、**富士通株式会社からAI開発責任者ら3名をヘッドハンティング**する等、国内の産学官の有識者が参画（兼務、クロアポ、客員、出向など）した重点的人員配置を行い、**施設園芸農業に特化した世界有数の研究拠点**を形成する。

- ・**センター長はIoPの提唱者の北野雅治特任教授。**
- ・センターの最高意思決定機関「**運営戦略室会議**」のメンバーの約半数を学外者とする。
- ・研究課題が社会実装と産業振興に着実につながるよう、**IoP推進機構における産業政策面での評価や県における社会政策面での評価によるPDCAを徹底**し、研究課題の集中と選択を不断に行う。

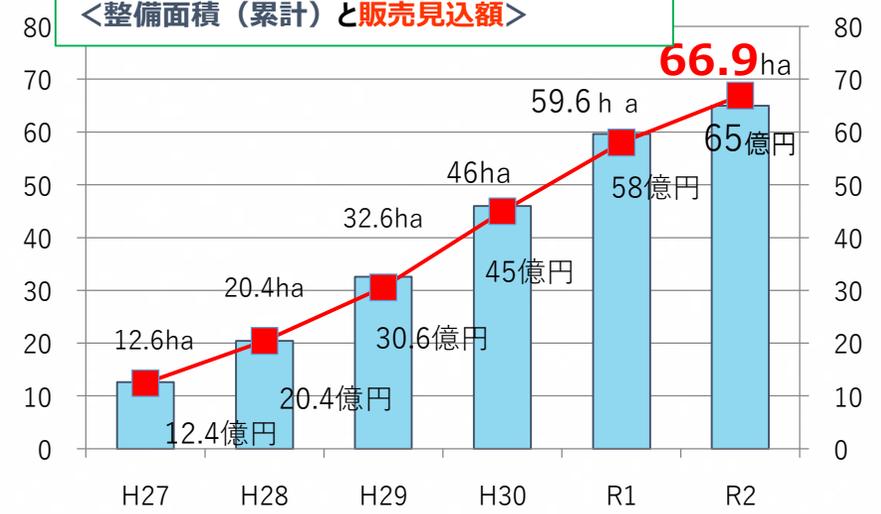


9. 新規就農者や規模拡大志向農家が活用できる園芸団地整備



次世代型ハウスの普及面積

<整備面積 (累計) と販売見込額>



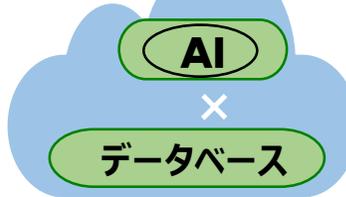
産地から出荷情報の発信



農家が、自ら、
出荷できます情報を登録

- ・いつ（明日、今週、来週・・・）
- ・何を（AL、2本入り袋、業務用大袋・・・）
- ・どれだけ（〇kg、△ケース・・・）

IoPクラウド



消費地からの注文

他と違う
PBブランド
を作りたい

餃子用の
ニラを大量
に欲しい

米なすの
2Lが
欲しい

こだわりの
〇〇さんの
逸品が欲しい

輸出したい

...

○受発注システムの開発・構築

- ・ネット経由で、顧客から数量・規格・期間・金額が発注できる
- ・顧客からの発注を生産者に流す、販売代金を顧客に請求
- ・生産者は、注文に応じて、商品を集荷場、宅配便等に出荷
- ・顧客からの販売代金を、生産者毎に直接精算する

○注文に応じて、契約を守り、生産・出荷できる農家を選定

- ・集荷場毎、品目毎等で部会全体に説明し、手上げ方式で決定

○顧客の確保

- ・やる気のある卸売市場、仲卸、ベンダー、実需者等へのプロモーション